

最新ニュースをお届けします！



No.216

## 教えて！！ハムスターとモルモットの違いつて？？

なかよし動物園のかわいいアイドルはハムスター？それともモルモット？？正解は…モルモットです！！現在、オス4匹、メス10匹の計14匹います。では、どのような違いがあるのか6つのポイントでお話ししますね♪

- ①サイズ どちらも小さいイメージが強いですが、だいたい違います。ハムスターは手乗りサイズで平均100グラム以下、モルモットは平均1キログラム以上あります。
- ②食事 ハムスターは雑食（なんでもOK）で、植物の種子や昆虫までも食べます。モルモットは完全草食ですが、一部の野菜・果物も食べられます。パクパクタイムのにんじんも大スキです！！
- ③しっぽ ハムスターには短いしっぽがありますが、モルモットにはありません。
- ④寿命 ハムスターは平均2～3年、モルモットは平均6～8年生きると言われています。
- ⑤運動 ハムスターは体も軽く、運動能力も高いため、回し車はお手の物ですが、モルモットは運動が苦手で、回し車に乗れません…(涙)。
- ⑥赤ちゃん 一度の出産でハムスターは3～15匹、モルモットは2～4匹の赤ちゃんを産みます。ハムスターは子たくさんです。

どうでしたか？？意外と知らないこともあったのでは？？春になったらまた、会いに来て下さいね♪お待ちしております！！

【問い合わせ】栗山公園案内所 ☎ 72-0706  
指定管理者 株式会社たかはしダリア

[最新情報を簡単アクセス]  
★栗山公園公式ホームページ  
<http://t-daria.com/parktop>



## No.8 定期出店でさらなるチャレンジ

くりふとキッチンでは、日替わりでの飲食営業・カフェ営業のほか、飲食ビジネスへの新たなチャレンジを望む事業者を募り、2～3カ月間同一曜日に販売を行う形式で「定期出店事業」を行っています。

出店者は、新メニューの開拓、市場調査、店舗開店に向けての宣伝などを目標とし、くりふとの担当スタッフも伴走しながら販売方法、情報発信などの効果検証を行います。

これまで4組の事業者がチャレンジをしており、試行錯誤しながらも改善を重ね、成果を得て次のステップへと繋げています。

町内の方だけでなく町外から「ここで挑戦したい」と思い切って一歩踏み出した方もおり、チャレンジを生む場所として展開していきます。

夢に向かって一歩ずつ挑戦を続ける出店者の方々を温かく見守り応援していただければ幸いです。

【開館時間】9:00～22:00（月曜休館、変動あり）

【所在地】中央3丁目154-1（栗山駅南側）

【問い合わせ】栗山煉瓦創庫くりふと ☎ 76-9945



Web



Facebook



Instagram



## No.44 栗山名物「栗饅頭小史」(断片)

今回は栗山に馴染みの深い「栗饅頭」の歴史を調べてみました。資料を眺めると、明治42年の地方新聞『北海タイムス』の広告に、「栗山名物栗饅頭、栗山駅飯田風月堂」とあるのが最も古い記録です。さらに大正2年の「角田村警見記」と題した連載記事には、「相応しき村名、岩見沢駅を去る南方十余哩名物の栗饅頭で知られておる室蘭線栗山駅」とあり、当時すでに栗山の栗饅頭は「名物」として知られていたようです。さらに、大正10年の紙面にも「室蘭線栗山停車場前栗饅頭大飯田商店」と記された広告がありました。



昭和7年の「栗まんぢう」折箱(15銭)

時代が変わった昭和6年、栗山駅で「栗饅頭」を売り出したのが川瀬佐七氏の美津和商会です。「一口サイズの塩味の効いた味」が特徴でしたが、昨年惜しまれながらその歴史を閉じました。昭和8年には、栗山製菓が「砂糖塩味の効いた白練餡味」の栗饅頭を販売、今は特大サイズも並んでいます。昭和26年には、前田菓子舗が「渋皮つきの栗が一人入った」栗饅頭を製造しています。同じ栗饅頭でも、それぞれ歴史と個性が名物を支えてきたようでした。



栗山の知られざる歴史、今ここに蘇る  
町史資料調査室・研究員／青木 隆夫  
YouTubeで歴史コンテンツ公開中！  
町史資料調査室 ☎ 76-7820



ファブラボ栗山運営支援員  
やまね けんぞう  
山根 賢三 隊員



▲ファブラボ栗山 Webサイト



FABLAB\_KURIYAMA  
▲ファブラボ栗山 instagram

皆さん、こんにちは。ファブラボ栗山運営支援員の山根です。栗山町に来てまもなく1年になりますが、温かい皆さんに支えられ、充実した日々を過ごさせていただいています。

来月から私の2年目の活動が始まりますが、これからは、ファブラボ栗山の「3D スキャナー」を活用した取り組みに力を入れていきます。昨年、北学田地区の「成壘記念碑」の3D スキャン作業をお手伝いしました。その後、記念碑は惜しまれつつ解体されてしまいましたが、その姿はデジタル上に留められ、形あるものを記録として残す重要性を痛感しました。

「3D スキャン」技術は、栗山町の大切な文化財や思い出の品を「デジタルの地域資産」として

未来へ継承する力を持っています。風景、人物、商品など、保存だけでなく、データを教育や特産品開発などに活かすことで、栗山町の新たな魅力発信にも貢献できると考えています。

ファブラボ栗山には、こうしたデータを実際に出力できる3D プリンターなどを中心に、アイデアを形にする設備が揃っています。「これ、3D スキャンできるかな？」といった挑戦から、「ラボって何ができるの?」といった疑問まで、ぜひお気軽にご相談ください！



北学田でのスキャンの様子